
新世紀エヴァンゲリオン

S2機関

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新世紀エヴァンゲリオン

【Nコード】

N9862X

【作者名】

S2 機関

【あらすじ】

もし自分がエヴァの世界に入って使徒と戦う事になったらという妄想一度考えた事あるだろうか この小説ではそれが現実になるのです

テレビ版本編とオリジナル版を加えてお送りします

設定キャラ紹介

設定

この物語はテレビ版をベースに（25 26を除く一部オリジナル）
進行して行きます 原作と異なる点は 第1話でオリキャラがエヴ
アの世界に迷いこむ事です あと作中でゲンドウと冬月が突然行方
不明になって新たな司令と福司令が登場します（ちなみにこれもシ
ナリオの一つという設定です）

キャラ紹介（順次更新して行きます）
初期オリキャラ

中島リン（14）
現実世界からエヴァの世界に来た女子中学生

中島スズナ（15）
リンの姉でエヴァの世界に来て（ネタバレ）3号機のテストパイロ
ットになる

補足

この作品は新劇ヴァージョンではありませんか真希波も登場します
あと

霧島マナも登場します
加時の登場シーンを新劇版にします
アスカの場合はTV版で行きます そこでは加時ではなくオリキャ
ラを登場させる予定です

登場エヴァ（順次更新していきます）

エヴァンゲリオン試験初号機

エヴァンゲリオン試作零号機

エヴァンゲリオン正規実用型2号機

（先行量産機）

エヴァンゲリオン正規実用型3号機

エヴァンゲリオン次世代試験4号機（S2機関搭載ヴァージョン）

エヴァンゲリオン次世代型4号機（稼動時間が3分増えたヴァージョン）
通称改（オリエヴァ）カラーリング ホワイト

エヴァンゲリオン仮設5号機

エヴァンゲリオン正規実用型6号機オリエヴァカラーリング イエロー

エヴァンゲリオン正規実用型7号機オリエヴァカラーリング グリーン

エヴァンゲリオン正規実用型8号機オリエヴァカラーリング ダーク？グリーン

エヴァンゲリオン1号機（量産型）

エヴァンゲリオン2号機（量産型）

エヴァンゲリオン3号機（量産型）

エヴァンゲリオン4号機（量産型）

エヴァンゲリオン5号機（量産型）

エヴァンゲリオン6号機（量産型）

エヴァンゲリオン7号機（量産型）

エヴァンゲリオン8号機（量産型）

エヴァンゲリオン9号機（量産型）

ここで各オリエヴァの搭乗者紹介

エヴァ7号機 中島リン

エヴァ6号機 洞木ヒカリ

エヴァ4号機S2 霧島マナ

エヴァ4号機改 鈴原トウジ

リンの母親について

リンの母親はリンを生んだ直後に行方不明になっている。その時連続失踪事件が起きていてその中にリンの母親が含まれていた。読者に発表出来るのはここまでストーリー中の「ネルフ誕生」(タイトル変更版)でリンの母親の事が明らかになります。リンやスズナについても

初号機

第3の使徒サキエルを倒し葛城邸があるコンフォートマンションに向かう

シンジとミサト途中路上で倒れてる少女を発見する

シンジ「ミサトさん誰か倒れてるよ」「ミサト」「ほんと?」「シンジ」「ほら」

シンジ「助けなくちゃ」「車をわきに止めるミサトそしてシンジが少女の所へ行く

シンジ「大丈夫?」

ミサト「どうやら脱水症状のようね」

ミサト「とりあいずうちに運びましょう」

コンフォートマンション

葛城邸

リン「ここは?」

シンジ「やっとときずいた ちよつと待つてね ミサトさん」

ミサト「もう大丈夫?」

リン「ええ」

ミサト「なんであそこに倒れていたの?」

リン「わかりません ただ」

シンジ「ただ?」

リン「朝学校へ行く時に怪しい光に包まれて目が覚めたら」

ミサト「もしかしたら あなたの出身は?」

リン「千葉県船橋市です」

ミサト「千葉県はセカンドインパクトで水没したのよ」

リン「セカンドインパクト？どこかで聞いた事があるような…」
ミサト「リンちゃんあなたは平行世界の人間ね」

シンジ「なんですその平行世界って」ミサト「地球にはたくさん
時間があるの例えばセカンドインパクトが起きなかつた地球と起
きた地球エヴァが存在しない地球と色々あるの」

シンジ「そうなんですか」

リン「私はどうすればいいですか」

ミサト「戻の世界に戻る保証はないからとりあいずうちに住む
て言うのはどお」

リン「いいんですか？」

ミサト「いいのよ」

リン「一つ条件を出していいですか？」

ミサト「条件？」

リン「私をフォースチルドレンとしてネルフに迎え入りでもらう事
です」

考え込むミサト

シンジ「なんでネルフの事しってるの？」

リン「わ 私の世界はエヴァはTVアニメでしか存在しないのよ」

シンジ「へ〜」

ミサト「わかつたわ」

リン「ありがとうございます」

ミサト「でも乗るエヴァがないわよ」リン「大丈夫ですシンジ君の
初号機を使います」

ミサト「…」

シンジ「でも父さんの許可は？」

ミサト「なんとか説得してみるわ」

こうしてリンとシンジの新しい生活が始まるのであった
つづく

2号機

2日後

シンジ「学校ですか」

ミサト「そうよ」

リン「まさか私も!？」

ミサト「ええちゃんとフォースチルドレンとして認められたんだから」

シンジ「学校はいつから?」

ミサト「今日からよ」

急いで学校へ行く二人

学校で

ケンスケ「きいたか?」

トウジ「なにを?」

ケンスケ「今日転校生が来るって話しだぜ」

トウジ「まだ親父のデータをみたのか」

ケンスケ「まあね」

担任が入って来る

ヒカリ「きりつ れい 着席」

担任「今日は転校生を紹介する」

シンジ「シンジです第2東京から来ました宜しくお願いします」

担任「次中島リン自己紹介を」

リン「中島リンです 宜しくお願いします!」

男子生徒がリンを見て騒ぐ

昼休み

トウジ「すまんな転校生 わいはお前を殴らないと行かん殴らない
ときが済まないのや」

ケンスケ「ごめんね あいつの妹さんこの間の騒ぎで大怪我しちゃ
ってまそついう事だからさ」

シンジ「僕だつて乗りたくて乗っているわけじゃないのに」

その声が聞こえたか知らないがトウジが戻ってくる

そしてもう一度殴る

つづく

3号機

ネルフ本部休憩室内

リッコ「そういえばシンジ君転校早々クラスメイトに殴られたそうじゃない」

パイロットのセキュリティは大丈夫なの？

ミサト「情報部の監視システムには問題ないわ対した怪我じゃなさそうだしそれにプライベートには感触しない方がいいもの」

リッコ「一緒に住んでるのに？　じゃフォースのリンはどう？」

ミサト「リンの方は別に問題ないわしっかりしているし」

リッコ「話し変わるけど彼女の機体来週届くそうよ」

ミサト「そう」

ネルフ本部中央司令部

青葉「目標確認モニターに映します」リッコ「間違いない第4の使徒！」

青葉「委員会からエヴァンゲリオンの出撃要請が出ていますか……」

ミサト「うるさい奴らね言わなくても出撃させるのに……」

シエルター内

ケンスケ「まただ」

トウジ「まだ文字だけかいな？」

ケンスケ「報道規制つてやつだよ僕ら民間人には見せてくれないんだこんなビッグイベントだって言うのに」

ケンスケ「ねえちよつと2人で話しがあるんだけどねえ」

トウジ「ほんま自分勝手な奴だな」

トウジ「委員長」

ヒカリ「何？」

トウジ「わしら2人便所や」

ヒカリ「もうちゃんと済ませておきなさいよ」

トイレ内

トウジ「なんや？」

ケンスケ「転校生の兵器見たくないか？」

トウジ「まさかお前」

ケンスケ「頼むよロツク外すの手伝ってよ」

トウジ「わかったよ」

再びネルフ

ミサト「いいシンジ君練習通りにやって」

シンジ「はい」

リツコ「ガドリングの一斉射撃練習通りに行って」

シンジ「はい」

ミサト「リンはシンジ君のバックアップいいわね」

リン「はい」

ミサト「発進！」

つづく

ちよつと番外編1 「ゲンドウ風邪を引く」(前書き)

いきなり番外編でごめんなさい!!

ちょっと番外編1 「ゲンドウ風邪を引く」

ゼーレ01「いかり君最近の君は少し風邪気味じゃないのかな」

ゲンドウ「冬月にも言われます」

ゼーレ02「早く直してくれたまえよ」

ゲンドウ「わかっております」

電気が落ちる音

冬月「そういえばあの時のユイ君も風邪を引いていたな」

18年前 京都

ユイ「冬月先生」

冬月「ユイ君風邪を引いてるみたいだかもしかしてインフルエンザか？」

ユイ「違いますよただの風邪です」

冬月「風邪を甘く見たらいかん」

ユイ「わかってますよ」

冬月「今日は念のため帰った方がいい」

ユイ「いいんですか」

冬月「今日は寒くなるって言ってたからな」

ユイ「お言葉に甘えて…」

冬月「しかし今度は君が風邪を引くとはな」

ゲンドウ「ああ」

その後ネルフ内の病棟に行き 風邪を直したゲンドウであった

ちよつと番外編1 「ゲンドウ風邪を引く」(後書き)

サブタイトルに関して きずいたかも知れませんが一応説明
サブタイトルはドラマ相棒シーズン8の「右京風邪を引く」からい
ただきました 説明終わります

4号機 (前書き)

3号機のおつづきですか3号機に編集してかかせていただきます

4号機

あの戦闘から2日後

ネルフ司令室

ゲンドウ「リンのエヴァだか7号機に決まった」
冬月「7号機？まさかあれの建造を早めたのか」
ゲンドウ「ああ」

冬月「しかし シナリオがおお幅に…」

ゲンドウ「修正の範囲内だ問題ない」

冬月「老人達がだまっていけないぞ」

ゲンドウ「問題ない」

冬月「いつ来る？」

ゲンドウ「3日後だ」

3日後

リッコ「リンちゃん」

リン「はい？」

リッコ「あなたに見せたい物があるの」「リン」は〜

リッコ「シンジ君もおいて」

シンジ「はい」

ゲイジ

シンジ「ミサトさん」

ミサト「待ちくたびれたよ」

リッコ「これよ」

リン「これは エヴァ?」

(確かこの時点でエヴァは3機どっとなってるのよ)

リッコ「このエヴァは7号機よ」

リン「7号機ですか?」

リッコ「実用型のね」

リン「このエヴァはまさか…」

リッコ「あなたのエヴァよ」

リン「私の…」

ミサト「嬉しくないの?」

リン「嬉しいです」

リッコ「早速だけどシンクロテストするわよ」

マヤ「エントリースタート」

リッコ「おめでとうシンジ君シンクロ率記録更新よ」

シンジ「ありがとうございます」

サキエル戦から20%の上昇したのだ

ミサト「どう？エヴァの乗り心地は？」「リン」とてもいいです
なんか懐かしい感じがします」

リッコ「懐かしい？」

リン「なんか母さんに包まれているようなそんな感じですよ」

リッコ（気づいた？まさかね）

ミサト「シンクロ率はどう？」

マヤ「72.1%です」

ミサト「72.1？」

リッコ「マヤそれ間違いない？」

マヤ「間違いありません」

リッコ「二人ともお疲れ様上がっていいわよ」

ミサト「今回は無事に終わったわね」

リッコ「ええ」

1カ月前

ゲンドウ「実験開始」

オペ「パルスに異常発生」

マヤ「ダメですせき止められません」

オペ「零号機完全に制御不能」

オペ「オートリヤクシヨン発動します」

ゲンドウ「いかん！」

ゲンドウ「レイ！」

オペ「零号機完全停止まで1098765432

1 零号機完全停止」

走るゲンドウ

ゲンドウ「レイ レイ大丈夫か？」

レイ「ええ」

リッコ「正規の報告書では消されてるけど事実よ」

シンジ「そうなんですか」

リン（原作通りだ…）

リッコ「そうだ綾波レイの更新カードレイの所に持って行ってくれる？」

シンジ「はい」

リン「私も行っていい？」

リッコ「いいけど…」

つづく

ちよつと番外編2 「エヴァ5号機対第3の使徒」(前書き)

この番外編は今後のストーリーに影響していきます

ちよつと番外編2 「エヴァ5号機対第3の使徒」

シンジとリンがシンクロテストをしているところ
ネルフベタニアベースにて

仮設5号機内

オペ「エントリースタート」

オペ「LCCL電荷を開始」

オペ「プラグ深度初期設定を維持」

オペ「自律システムに問題無し」

オペ「始動電圧臨界点をクリア」

オペ「全て起動位置」

オペ「シンクロ率規定値をクリア」

オペ「搭乗者 思考言語設定をお願いします」

マリ「はじめてなんて日本語で」

オペ「了解」

加持「新型の支給間に合わなかったか」

マリ「胸がきつくでやだ」

加持「お前は問題児だからなま頼むよ」

マリ「さてエヴァンゲリオン仮設5号機起動！」

マリ「さっさとくたばれ!!!」

加持「5号機の自爆プログラムは無事作動してくれたか 大人の都

合に娘を巻き込むのはきおくれするな

ちよつと番外編2 「エヴァ5号機対第3の使徒」(後書き)

設定追加 加持はミサトとは付きあつておらず加持はのアスカの本
当の母親と不倫したという設定です 大学時代からの友人つて言う
のは変えています

6号機

レイのマンション

シンジ「綾波？入るよ」

リン「おじゃまします」

リン「これが女性の部屋？もつときれいに使わないと」

シンジはメガネをみた

シンジ「綾波のかな？」

シンジがメガネをかける

レイがシャワーから出て来る

シンジ「あ、あの！」

レイがメガネを取り上げようとした

レイ「私のメガネなんでかけてるの？」

シンジ「それは…」

リン（あれそんなセリフあったけ？）

レイ「要件は？」

リン「あなたの更新カードを渡しにきたのよ」

レイ「そう」

シンジ「はいこれ」

レイ「お茶でも飲んで行く？」

シンジ「いいよすぐ帰るから」

リン「うん」

（大部性格変わってる〜）

シンジ「それじゃ」

レイ「まだ名前を聞いてない」

シンジ「僕はシンジ」

リン「私はリン宜しくね」

7号機（前書き）

やっとうラミエル登場です

7号機

ネルフ

オペ「対象物は小田原防衛線に侵入」

日向「未確認飛行物体の分析完了使徒です」

ゲンドウ「7号機を出撃させる」

ミサト「はい」

7号機内

ミサトの声「いいリンちゃんATFを中和しつつパレットの一斉射撃いいわね？」

リン「はい」

ミサト「発進！」

マヤ「目標に高エネルギー反応！」

リッコ「まさか！」

ミサト「リンちゃんよけて〜」

青葉「回避成功しました」

冬月「こんなのシナリオ外だぞ」

ゲンドウ「問題ない」

リン「ミサトさん」

ミサト「なに？」

リン「ドクマの槍を使わせて！」

冬月「ロンギヌスの槍をか」

ゲンドウ「ダメだ」

ミサト「今は彼女の言葉に賛成するべきです」

マヤ「目標に再び高エネルギー反応！」

ミサト「今度こそまずい！」

リン「きゃああああああ」

マヤ「エヴァ7号機予備電源終了」

ラミエルは攻撃を止めネルフ直上へ移動した

ミサト「パイロットの救助急いで！」

青葉「はい」

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9862x/>

新世紀エヴァンゲリオン

2011年11月1日02時22分発行